



## 私は機械作業です

黄 叔 娟  
HUANG SHU JUAN

私は実習生として、(株) APC でプラスチック成型の機械作業員として働いております。作業者中、機械の警報音が鳴るたびに、私は胸をドキドキさせながら操作を続けています。

私は、中国の会社で起きた事故を今でもはっきり覚えています。当時私は、人事部の仕事をしていました。十九歳の彼は、深圳市の会社で、私が責任を持って募集し、研修生として入社させたDさんです。プレス機械で加工作業をしていた時に、光線式安全装置の電源を切ったまま、フットペダルを踏み、右手を金型の間にはさまれ、親指以外の四本の指を失い、七級の障害と認定される大けがをしました。あの時のDさんの顔色は忘れられません。「もし、私がDさんが入社した時に、もっと厳しく安全知識を教えてあげていたら」もしくは、「入社させなければ、彼の人生は違っていただろうではないか」と自責しました。しかし、その時私は、彼に何も言えずに、黙ってしまいました。それから私は、機械は危険で、できるなら機械に関する仕事は、したくないと思うようになりました。

ところが、自分の夢のために日本に来て、機械と一緒に仕事をするようになって、一年になろうとしています。入社当日、機械の仕事に配置された時、すぐに先輩に「危ないですか?」と質問しました。不安で仕方がありませんでした。機械の警報音が鳴るたびに、怯えていま

た。しかしみんなができる事だからと、私も十分に勇気を出し、ルールを守りながら機械操作をしました。運転中の音やスピードなど、何か繋がりがあある事をよく考えてやっているうちに、知らず知らずのうちに上手に操作できるようになりました。その上、異常にすぐ気がついたり、不良品が出ないように調節する事など、機械の事がますますわかるようになりました。確かに、どんな仕事でも「習うより慣れろ」「やればやる程上手くなる」と言われていますが、仕事に慣れた人には、油断しやすくなり、間違いを犯します。特に安全意識を失う事だと思います。

その事に気がついた私は、ルールや5Sを守り、手順書どおりに作業し、機械の調子を注意深く観察し、わからない事は質問し、メモをして覚えます。会社のリーダーや先輩達は、いつも真剣に教えてくれるので、感謝しています。機械をわかるようになるとともに、徐々に機械の事を恐れなくなりました。やっと私は機械作業員として、自然にDさんへ励ましの言葉のメールを送ることができました。なんとなく、ほっとした気持ちになり、日本に来て良かったと思いました。

私は機械作業員です。機械は正しく使えば怖いものではなく仕事の仲間だと考える事ができるようになりました。これからも、家族のためにも、油断する事なく、安全に作業します。

また、仕事のみならず、何にでも正しい態度で取り組んでいける自信を持つ事ができました。

国	籍	中国
職	種	プラスチック成形
実習実施機関		株式会社エービーシー
監理団体		協同組合ロジテック愛知